

カルメル 靈性センターニュース



宇治カルメル修道院

2019年9月

356号

【教会からの巻頭の言葉】「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ12章21節)

内向きで個人主義的な靈性への誘惑は退けなければなりません。それは、愛からくる要求や、いまでもなく受肉の意味とも相いれないもだからです。その緊張は、わたしたちに、歴史の相対的な性格を意識させてくれるものですが、わたしたちが歴史を「築き上げていく」務めを放棄することを意味するものではありません。

これに関する第二バチカン公会議の教えは、これまで以上に時宜にかなつたものとなります。「キリスト教のメッセージは世界の建設から人々の手を引かせ、仲間たちの福祉を無視するように励ますものではなく、むしろ、これらを実行するよう強く義務付けるものである」(『現代世界憲章』22)。

(聖ヨハネ・パウロ二世『新千年期の初めに』52)



目次

教会からの巻頭の言葉	1
目次	2
心の泉	3
カルメル会の企画案内	25
東京	26
京都	30
名古屋	32
北陸	33
通信深読お申込みのご案内	34
諸所の企画案内	35
郵送お申込みのご案内	42
あとがき	43

心の泉



十字架の道行き(宇治カルメル会修道院)

DE IMITATIONE CHRISTI
キリストにならう バルバロ訳



第三卷

第二十二章 神の多くの恵みを忘れてはならない

1 子

《主よ、あなたの教えに心を開き、あなたの掟に従って歩ませてください。あなたの旨を知らせてください。またあなたの日常的な恵みと特別な恵みを、心からの尊敬と注意深い思慮をもって、私に思い出させてください。そうすれば私は今後、あなたに時宜にかなった感謝をすることができるでしょう。

私はたった一つのどんな小さな恩恵にさえも、ふさわしい感謝ができないことを告白します。私はあなたが与えてくださった一つの恵みにさえ、ふさわしくない者であり、あなたの偉大な寛容さを思いめぐらす時、その恵みの深さにぼう然とするばかりです。

2 み摂理に対する賛歌

私たちが魂と体とに持っているすべてのもの、内部と外部に持っている自然の、または超自然の恵みは、すべてあなたの賜物です。一切のそれらの善を与えてくださる偉大と慈悲と仁慈に富むあなたをたたえます。またある人には多く、ある人には少なく恵みが与えられたとしても、すべてあなたのものであり、あなたなくしては、そのかけらさえも受けることができないです。

多く受けた人は、それが自分の功徳であるかのように誇ることなく、他人に自慢することもなく、少なく受けた人を軽蔑することもしてはなりません。何事も自分に帰することなく、もっとも謙遜に敬虔に感謝する人が、偉大な人だからです。そして、自分は誰よりも卑しく、誰よりも無価値だと思う人が、大きな恵みを受ける値打ちのある人です。

3 神は私たちの望みを望まれる

一方、少なく受けた人は、そのため悲しみ恨むことなく、多く受けた人をうらやます、主のことを考えなければなりません。「人に差別なく」(一ペトロ 1・17) 豊かに、無償で喜んで賜物をくださるあなたのあわれみを顧みて、賛美しなければなりません。すべての賜物はあなたから来るのですから、あなたはすべてにおいて賛美されなければなりません。あなたは、一人ひとりに何を与えたらいのかを知っておられます。そして、一人には少なく、一人には多く与えたとしても、その理由を判断するのは私たちではなく、おのおのの功徳を知っているあなたのです。

このページを繰る頃はまだ残暑の厳しい日々が続いているのでしょうか。9月8日はマリア様のお誕生日、15日は悲しみの聖母に捧げられた祝日、29日は三大天使ガブリエル、ミカエル、ラファエルの祝日と典礼は、私たちが日々信仰を深めてゆくよう助けてくれます。30日はテレーズの命日（翌日が祝日）：「わたしは死ぬではありません。命に入るのです」と苦しい闘病生活においても確信していたテレーズ。テレーズのように信仰のまなざしで、「たとえ黒い雲が愛の太陽を隠すようなことがあっても、変わることのない神の愛」太陽を見つめ続けて日々を生きていくことができますように。



イエスさまは 本当に悟りつくせないほどの愛で
わたしたちを 愛しておられます。
わたしたちにも ご自分といっしょに人々を救うため
一役買わせようとお望みです！
主は わたしたちの協力なしに 何一つなさりたくないのです。

～テレーズ～

こうしてテレーズは自分に注がれる神の慈しみを必要とする人々に、惜しげなくまき散らし続けています。

わたしは地上で善をおこないながら、天国を過ごしましょう。
わたしを迎えに来るのは、「死」ではなく
神さまです

～死を前にしてのテレーズの言葉～

「命日」が眞の「いのちの日」となるよう、
テレーズに助けられて 今日の平凡な出来事を
生きてまいりましょう。

伊従 信子（いより のぶこ）
ノートル・ダム・ド・ヴィ



創造主への賛美（23）

くのり
九里 彰

いじめは ちがいから 起きる

この言葉は、実に根本的な問いを私たちに投げかけているのではないだろうか。そして、どこの国にも見られることだが、私たち日本人は、「人と違うこと」を極端に恐れる国民ではないだろうか。

武家政権による長い支配や農業を基盤とした村社会の歴史、それにキリスト教迫害、あるいは明治以降の学校教育制度などが影響を及ぼしているのかもしれない。髪形、衣服、動作、話し方、立ち居振る舞い、持ち物など、皆と同じでないと落ち着かない。そうしないと、「村八分」、あるいは「いじめ」にあう危険性があるからだろうか。国民全体を巻き込むさまざまな流行にも、同じような心理が働いているのだろうか。

とはいっても、西洋にもアンデルセン童話「醜いアヒルの子」がある。違いが「いじめ」の原因となることは、洋の東西を問わない。ここでは、他のアヒルの子と姿が違っていることが「いじめ」の原因である。人間の場合、皮膚の色、髪の毛の色、目の色といったことだけでなく、背が高いか低いか、太っているか痩せているか、鼻が高いか低いか、目が大きいか小さいか、唇が厚いか薄いかなどなど、身体的違いは、それだけで「いじめ」の対象となる。言葉の違いもある。話しているのは、標準語か、方言か。さらには、服装や持ち物の違いも、「いじめ」を引き起こす。というわけで、五感で捉えられるあらゆる「違い」が、「いじめ」の原因となる。

要するに、あらゆる「違い」、五感と精神で認識する一切の「区別」が、「いじめ」に、さらには社会的次元では、「差別」へと発展していくのである。この次元では、性別、住所、職業、年齢、学歴、家柄、貧富、社会的地位、社会的功績、さらには人種、国籍、宗教などの「違い」が「差別」となっていく。 1963年8月28日、リンカーンの奴隸解放宣言100周年を記念し集まった、20万人を超える大群衆の前でキング牧師が行なった有名な演説が想い起こされる。

私には夢がある。いつの日かこの国が立ち上がり、「すべての人は平等に生まれた。これは自明の真理である」というこの国の基本理念が、眞の意味で実現することを、私は夢見る。私には夢がある。いつの日かジョージアの赤土の丘で、昔は奴隸だった人の子孫と昔は奴隸の主人だった人の子孫が、友愛のテーブルを囲んで一緒に座ることを、私は夢見る。…私には夢がある。私の4人の小さな子供たちが、肌の色ではなく人格で評価される国で暮らすことを、私は夢見る。…」

（続く）

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（138）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「十字架の聖ヨハネの本質的で深遠な解説」（15）

また前にも述べたように、この段階において靈魂が楽しむ、“愛のそよ風のささやき”であるジャスミンの纖細な芳香がその間に入り混じる。また、まさに前に述べた他のすべての徳や賜物も同様で、それらは“静かな認識”、“沈黙の調べ”、“ひびきわたる孤独”、“愛に醉わす楽しい夕餉”と言われる」（CB24,6）。

ここまで引用された十字架の聖ヨハネのテキスト（三位一体のロマンセ、『靈の贊歌』（CB）の第4と5の歌、第14と15の歌、24の歌）から、また私たちの二次的な注釈から、どのように神との強い交わりが、エコロジカルな、あるいは環境についてのヴィジョンや体験を生み出しているかに気づかれます。それらは、彼にとって神とは何なのかを述べるために、またどのように自然を新たなまなざしで眺めなければならないか、神の歩みやキリストの復活に特徴づけられた信仰や観想から自然と出会うべきなのかを述べるために必要であったかに気づかれます。エコロジー やエコロジカルな諸要素を、大部分、神的な多くの事柄を詳しく説明するために十字架の聖ヨハネは使用したのです。

書き写された箇所や他の多くの箇所を読んだ後、エコロジカルなさまざまな侵害、すなわち、神によって塗油され、祝別された自然へのまったく野放しにされ正当化できない侵害を見出す時、傷つけられた母なる大地や傷つけられた海や傷つけられた自然への罪、真の冒瀆を思いめぐらすことが心に思い浮かびます。

（「十字架の聖ヨハネの本質的で深遠な解説」は、終了）



C年 年間第22主日

(ルカ14:1,7-14)

「だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる」

ルカによる福音書の大きな特徴は、社会的な弱者に対する思いやりの眼差しです。ルカは、貧しい人、らい病患者、サマリア人、ローマ人兵士、一般的に罪人と認定された人、羊飼い、女性に対して特別な愛を示す主の姿を描いています。今日の福音では、へりくだつて人をもてなし、社会的な弱者の世話をするようにと教えています。

聖書では、実際に謙遜に生きた数多くの人物に出会うことができます。そしてその謙遜の最高の模範は、イエスご自身です。真実の謙遜さには大きな価値があるため、イエスは、私たちにこれを要求される前にまずご自分の生涯を通じて実践されました。「主は末席に座られたが、誰もその席を奪うことはできない。」これこそ、受肉の本当の意味です。フィリピ2:6-8に、「キリストは、神の身分でありながら、神と等しい者であることに固執しようとは思わず、かえって自分を無にして、僕の身分になり、人間と同じ者になられました。人間の姿で現れ、へりくだつて、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした」と記されているとおりです。末席に座ることは、恥をかいたり自分を格下げしたりすることを意味しません。イエスの示した模範のとおり、主の十字架こそ、その最高の偉大さを完全に現わしています。イエスの全面的な自己犠牲は、既に主の栄光そのものだったのです！まさにへりくだる者は高められるのです。

今日のたとえ話を通して、主は、この謙遜の徳に倣うようにと私たちを招いています。イエスが柔軟で謙遜な方であることを私たちは知っています。イエスは、他の徳も修得することを勧めますが、謙遜こそ、キリスト者のあらゆる徳の土台となることを教えています。イエスは、私たちに、もてなしの心を育てるにも求めています。ルカは、福音書全体を通して、貧しい人と当時の社会から排除されていた人々に心を注がれたイエスの姿に注目しています。もてなしの心は、信仰深い共同体の大きな特色の一つです。私たちも、見知らぬ人へのもてなしを怠らないようにしましょう。希望、癒し、健康を相手に与えることができるよう、手を差し伸べましょう。後でお返しを期待できる人だけを招待する、という打算的な考えはやめようではありませんか。宗教や社会的地位に關係なく、誰にでも分け隔てなくたくさんの愛を注ぐことによって、復活のときに栄光に満ちた祝福を受けるにふさわしい者となることができるでしょう。

(Sr.Paulina)

年間 第23主日

(ルカ 14:25-33)

「自分の持ち物を一切捨てないならば、あなたがたのだれ一人としてわたしの弟子ではあり得ない。」

このイエス様の厳しいお言葉を、私たちはどう受けとめたらいいのでしょうか。持ち物なしで生きていくなどとてもできません。ではどうしたらいいのでしょうか。このお言葉を受けとめるために、イエス様は二つのたとえ話をしてくださいました。

「あなたがたのうち、塔を建てようとするとき、造り上げるのに十分な費用があるかどうか、まず腰をすえて計算しない者がいるだろうか。そうしないと、土台を築いただけで完成できず、見ていた人々は皆あざけって、『あの人建て始めたが、完成することはできなかつた』と言うだろう。」

「また、どんな王でも、ほかの王と戦いに行こうとするときは、二万の兵を率いて進軍して来る敵を、自分の一万の兵で迎え撃つことができるかどうか、まず腰をすえて考えてみないだろうか。もしできないと分かれば、敵がまだ遠方にいる間に使節を送って、和を求めるだろう。」

この二つのたとえ話は、腰をすえて考えることを教えています。私たちも、持ち物をいきなり捨てるることはできませんが、まず腰をすえてよく考えてみましょう。この二つのたとえ話は、目標や全体像を描いて考えることを教えています。そして、その目標や全体像を完成させるためにはどうしたらいいのかを考え、完成に至れるようなやり方で事を始めて行く大きさを教えているのです。土台だけ築いても塔を完成できなかつたら、その土台は全く無意味。勝ち目のない戦いに出て、大切な兵士を失うのも愚かなこと。私たちの人生の全体像もよく考えてみよ、とイエスは言っているのです。

「人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の身を滅ぼしたり、失ったりしては、何の得があろうか」(ルカ 9:25)。

ものを手に入れることが人生なのか。命を得ることが人生なのか。何が人生の目的なのかをよく考えよ、ということだと思います。ものを手に入れることが人生ならば、どんどん手に入れればいいと思います。でも、私たちは知っています。私たちは皆、何も持たずに神のもとに帰らなければならないことを。ものをいくらためこんでも神のもとには持っていないということを。

そのような人生の結末に向かって、どうやったらよく生きれるのか、どうやったら神様のもとに行った時に「よかつた」と思えるのかを、腰をすえてよく考えるべきなのです。イエスは言われます。「神の前に豊かになりなさい」(ルカ 12:21)。この「神の前での豊かさ」を得るにはどうしたらいいのでしょうか。少なくとも、ものをためこむことではないはずです。むしろ、ものを与えていく、奉げていく(=捨てていく?)ことでそれに近づけるのではないでしょうか。

まず、腰をすえて、どうやったら神の前に豊かになれるかという人生の目標を見据え、そこに至れるような一歩一歩を選んでいきましょう。

(今泉健神父)

年間 第24主日 (C)

(ルカ15:1-32)

ルカの福音の中で私たちは、罪人たちを探し出し、その人たちの生活の中に入り、その人たちを救おうとするイエス様の大きな使命を読みます。「人の子は、見失ったものを探し、救うためにきたのです。」ファリサイ派の人たち（これは「分離したもの」という意味です）は、「この人は罪人たちを迎えて、食事までいっしょにしている」とイエスについてつぶやきました。この人たちにはまた、徴税人や罪人たちがイエスの教えを聞きにやって来たのを、イエスに不平を言いました。イエスはこの人たちに三つのたとえを話します。

最初のたとえは、100匹の羊を持っている羊飼いがそのうちの一匹を見失ったとき、99匹を残して見失った一匹を探しに行く話です。二番目のたとえは、10枚のコインを持っている女性がそのうちの一枚を見失い、それを丁寧に探しに行く話です。三番目のたとえは、息子が二人いる人の話です。一人はいなくなり、もう一人は家にいます。父親は、毎日いなくなってしまった息子が帰ってくるのを待っています。

この人たちには、見失ったものを見つけたとき大喜びします。この喜びは、際限がありません。

私たちの神は憐れみに満ちたいつくしみ深い神です。神のいつくしほは、果てしないものです。本日の福音では、「喜びのいつくしみ」について語っています。三つのたとえで明らかなるものは、見失った羊、見失ったコイン、そして放蕩息子です。神は人間を愛し、人間は神にとって大切なものであることが、非常にはっきりしています。神はどうしても人間を救いたいのです。「見つける」、「戻ってくる」、「赦される」、「和解する」、これらはイエス・キリストの福音のキーワードです。神は最も罪深い人のところにでも寛大な愛を持って来てくださいます。私たちは皆、罪の傷を持っていますが、罪があるからというだけで迷うことはありません。罪人は、罪があるからではなく、罪の習慣に執着し神から顔をそむけるから迷うのです。私たちが罪をおかしたときでも、神は赦してくださいとのを忘れないようにしましょう。そして、神から頂いた赦しを他の人と分かち合いましょう。このことは神との親密な体験をもたらすでしょう。

キリストは、新約聖書全体で神の愛と憐れみを表しています。神の愛は非常に高く、深く、広く、人間の知恵を超える現実的な考えにはひどいものです。私は神を拒絶し、放蕩息子のように神から逃げ去るでしょうか？ 兄のように神と共に家に留りながら、神から遠く離れた心を持つてしまうでしょうか？ よく考えてみましょう。

(Sr.Paulina)

年間 第25主日

(ルカ 16 : 1-13)

今日の長いみことばですが、「不正な管理人」のたとえとして知られており、イエスが弟子たちに話された、たとえ話とその解説が語られています。

主人の財産を無駄遣いしていると告げ口され、窮地に陥ったある金持ちの管理人が、どの様に身に迫った危機を乗り越えてゆくのか。具体的には主人に借金をしている人を個別に呼んで、借用書の内容を書き換えさせ、その人に貸しを作り、恩を作り、仕事を辞めさせられても、迎え入れてくれる人たちを作った訳です。そしてその様に管理人が行ったことを、たとえ話に出てくる主人は、誉めたとあります。

この内容に関しては、律法では同胞に対し、利息を取って金を貸すことは禁じられ、商慣習として利息分を上乗せして証文を作っていたため、その分を差し引いた。本来の律法の下でのあり方に戻したという捉え方もある様です。

世の富は、この世が永遠でない様に、永遠に続く、永遠に持てるものではありません。いつか私たちは天に召される日が来ます。人生の精算をしなければならない時になって、初めて慌てふためくのはなく、今の世で、今の時に、私たちがどの様に使っていくのか、そのことを私たちに考えさせる「みことば」ではないでしょうか。

この世の富、この世を生きるためいただいた富、これで友達を作る。貧しい人に施し、自分のためだけでなく、世のためにも、人のためにも使っていくなら、永遠の住まいに迎え入れてもらえる。このことを心に留められてはと思います。

イエスは言われます。「あなたがたは、神と富とに仕えることはできない。」…と。

神の子として生きる私たちが、神の子として相応しい歩みを歩むことができます様に。

(Fr. 古川利雅)

C年 年間第26主日

(ルカ16:19-31)

今日の福音は、金持ちとラザロのたとえ話です。当時は、不平等に満ち、大金持ちもいれば極貧状態の人もいました。たとえ話の金持ちは名無しですが、貧しい人は「ラザロ」と名付けられています。彼は既に神の御目から見て「とても愛しい」存在であり、「ラザロ」には「神は助けたもう」という意味があります。

このたとえ話は、ルカによる福音書にしか見当たりません。ここに登場する金持ちは、衣食住のみならず時間と金と自由にも恵まれ、心配事や問題もありません。絵に描いたような安楽な生活です。こうした快適さと富が自分の責任を果たす妨げとなり、金持ちは、自分の玄関先に横たわる人が見えなくなっています。他方、ラザロはできものだらけで、金持ちの食卓から落ちるもので腹を満たしたいと思っていました。なお、当時の習慣では、手で食事をし、食べた後に汚れた手をパンで拭き取り、そのパンを犬に投げ捨てていました。

さて、ここでは3つの大切なメッセージがあります。1つ目は、地上生活における金持ちとラザロの対比。2つ目は、来世での両者の立場の逆転。そして3つ目は、金持ちが父アブラハムに対し、自分のように苦しまずに済むように生き残っている兄弟にしるしを送るようにと願い出たものの、却下されたことです。

「自分は紫の衣を着た金持ちでもないし、できものだらけのラザロでもない」と私たちは思うかもしれません、これは私たちが日々直面する現実そのものです。ラザロは、私たちの家の前に座り込むのではなく、この社会の貧しい人、抑圧された人、しいたげられた人、被害者、レイプされた人、尊厳を奪われた人たちの中にはいます。このたとえ話は、貧しい人、病人、そして苦しむ人の必要に鈍感になつてはならない、と教えてています。特に持たざる者と分かち合う姿勢を持たなければなりません。私たちは皆、全能の御父という共通の父親を持つ兄弟姉妹なのです。たとえ話の金持ちは、助けが必要な兄弟を援助することを拒んだだけで罰せられました。

私たちのいのちと全ての持ち物は、神からの尊い贈り物です。私たちは、洗礼の秘跡に与った者として、貧しい人と助けを必要な人に仕えるキリストの使命に参与するように呼ばれています。この地上のいのちは、永遠のいのちに至るための準備です。神から注がれる祝福を全部受け取り、それを互いに分配しなければなりません。さあ、自分にじっくりと問い合わせてみましょう。私は、神と他者に自分の心を開いているだろうか、と。

(Sr.Paulina)

糸巻き棒からペンへ(45)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドワルド・サンス OCD

(P. イバニエスの報告に) 元気づけられた聖女は、第二の教皇勅書を願うことに決めました。今回は、修道院を司教の下に置くようにと願ったのです。というのも、前回の勅書は男子カルメル会の管区長の下での創立を許可したものでしたが、管区長は今やこれを認めないからです。ところが、司教も自分のもとに修道院を持つ覚悟がなかったので、アルカンタラの聖ペトロは、創立を促す貴重な手紙を司教に書きました。「彼女はとても靈的で人で、まことの敬虔さをもって、ずっと以前から、この地に本当に宗教的な修道院を創立しようとしています。…主の愛ゆえに、この修道院を庇護し、受け入れてくださいますよう司教様にお願いいたします」。

けれども、ドン・アルバロ・デ・メンドサ司教は、心を動かされず、再び否定的な意見を表明しました。ついにアルカンタラの聖ペトロは、ティエンプロにある司教の別荘にまでおもむきました。しかし、肯定的な答えをかち取ることはできませんでした。獲得したことのすべては、司教がアビラに戻った時、創立の理由を聞くために、すでにたくさんのこと耳にしているその修道女本人に個人的に会いに行くという約束だけでした。司教の秘書、D. ホアン・カリッジョは、二人の出会いをこう語っています。「アルカンタラのペトロ修士は、司教様を、イエスのマードレ・テレサのいるエンカルナシオン修道院に、創立の問題を彼女と話すために、連れて行きました。午後、司教はこのことを終えて、もどってきました。本証人は、司教が次のように言うのを聞きました。主が彼女を完全に変えてしまっていた。あの女性の中で主が語っていたので、どんなことをしても聖ヨゼフ修道院の創立をやめないよう説得されてしまったと」。この時から、D. アルバロは、聖女の友人、信頼できる人物へと変わり、彼女の指導を受け、自分の遺産を彼女のために残すほどになるのです。

外部の反対は激しくなっていたにもかかわらず、彼女は、城壁の外にある小さな家の改修工事を、姉のホアナと義兄にまかせるため、彼らをアルバから呼び寄せます (『自叙伝』33・4以下)。工事は長引きます。というのも、壁が崩れ落ち、テレジアの小さな甥の上に覆いかぶさったからです。彼は死んだようになりました。知らせを聞いたテレジアは、床から彼の体を持ちあげ、抱きしめました。

(P. 九里訳)

いのちの言葉 9月

励まし合い、お互いの向上に心がけなさい。

(I テサロニケ 5・11)

使徒パウロは、自分が助け導いたテサロニケのキリスト者共同体に手紙を書いています。激しい迫害と苦難のためにテサロニケから逃れなければならなかったパウロは、もう二度と彼らのもとに戻れないとわかつていました。

そのような状況の中、パウロは手紙を書き送り、愛をこめて彼らの生活を導き、大きな試練にあっても、忍耐と愛をもって常に信仰に踏みとどまろうとする彼らの歩みをほめたたえています。そして彼らは、模範的なキリストの証人となったのです。

同じ時期にパウロは、テサロニケの信徒たちが心に抱いているひとつの疑問を知るに至ります。それは、「死後、自分たちを待ち受けているのは何か?もし、主がすぐに来られるのなら、どのようにして主をふさわしくお迎えすることができるのか?」という疑問でした。

これに対して、パウロは、何かの掟をもち出してそれを守りなさいとは言いません。むしろ、パウロはあらためて自分の信仰をここで告白しています。「全人類への愛ゆえにイエスは、ご自分の命をお捧げになり、そして復活なさいました。こうして、イエスは、すべての人々に永遠の命への道を開いて下さったのです」と。

パウロは、主をふさわしくお迎えするために、誠実に働き、兄弟愛に根ざした共同体を築きながら、日々福音に沿って生活しなさい、と彼らに勧めています。

励まし合い、お互いの向上に心がけなさい。

福音は、神が人の心に植え付けられた「善の種」を芽生えさせます。それは「希望の種」でもあります。この種は、神様の愛との個人的な出会いを通して日々成長し、やがて相互愛のうちに花を咲かせます。そして、人を孤立させ、争いや対立の原因を招く個人主義や無関心を遠ざけ、私たちが互いに相手の重荷を担い助け合うよう促してくれるでしょう。

また、福音の言葉はとてもシンプルであり、すべての人が理解し、すぐに実践できる言葉です。それだけではなく、私たちの人間関係と社会生活に革命をもたらし、多くの文化の根っこには、兄弟愛があることを私たちに発見させてくれます。

ところで、アフリカの人々の生き方のベースには“Ubuntu”(ウブントゥ：他者への思いやり)という精神が根付いています。つまり、“みんな共にいるからこそ、私がいる”という生き方です。

これこそ南アフリカにおいて政治活動を行ったあの偉大な指導者、ネルソン・マンデラ氏の思想でした。ある時、彼は『“Ubuntu”的意味は、自分のことを考えないということではありません。むしろ「自分は周りの人々を助けたいと願っているか?』と自問することにあるのです』¹と語っています。マンデラ大統領の一貫した勇気ある行動は南アフリカの歴史に変革をもたらし、人類社会に人種・民族の融和という偉大な一歩を記したのです。

励まし合い、お互いの向上に心がけなさい。

では、今月のみ言葉をどのように生きたらよいでしょうか？（キアラ・ルーピックは語っています。）

「私たちも、自分の家族や、職場、共同体、また教会や教会組織の中で、お互いの愛を育てるように努力しましょう。今月のみ言葉は、普通の価値基準にとどまらない愛、自分のエゴを乗り越えるほど、豊かな愛を抱くよう私たちに求めています。もし、私たちが、愛そのものに備わっている特徴、例えば、寛大であること、理解があること、相手を受け入れること、人に仕えようとする姿勢、隣人に欠けている点を補う思いやり、物質的な分かち合い等を思いだすことによっても、私たちにはたくさんのチャンスが与えられていることに気づくでしょう。

私たちの共同体に、このような愛があるなら、きっとその温かさは周りの人にも伝わっていくことでしょう。そして、まだキリスト者の生活を知らない人々も、その魅力に引き付けられ、気づかぬうちに、自分も同じ一つの家族の一員だと感じるようになるのではないか？」²

ここで、南イタリアのパレルモで行われている活動をご紹介したいと思います。パレルモでは、現在、貧しい人々を助けるために医師と医療関係者が協力してボランティア活動が行われていますが、そこでの体験です。

「私たちは、諸キリスト教会に属している医師、医療関係者ですが、福音は、すべての人を自分の兄弟・姉妹としてみるように私たちに求めています。私たちは、特に、病気であっても経済的な理由で治療を受けられない人のことを心に留めました。

私たちが関わっている人の中には、重い病気の人をはじめ、インターネットゲーム依存症の人もいます。私たちは、以前あまり活用されていなかった救護所を再利用して彼らのために外来診療サービスを行うことにしました。お互いに連携しあい情報交換を密にするために、フェイスブックなど、SNS(ソーシャルネットワークサービス)も駆使しながら、臨機応変に行動できるように努めています。

私たちの活動は、おもにガーナからここに来た大勢の移民の人々を対象としています。まだ、活動を始めてからそう長く経ってはいませんが、すでにガーナの人々の素晴らしい面を知り、彼らと共に、唯一の御父の子どもとしてお互いに助け合えることの喜びを体験しています。」

レティツィア・マグリ

☆講演会のお知らせ 「地球環境問題とライフスタイルの転換を考えるために」

～教皇フランシスコは『回勅ラウダート・シ』をもとに～ 講師：吉川まみ

日時：2019年9月21日（土）13:00～16:30

場所：幼きイエス会 ニコラ・バレ（四ツ谷）9階ホール（千代田区六番町 14-4）

JR四ツ谷駅（麹町口）から徒歩1分、駅出口から向かって斜め左前方建物

連絡先：フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@gmail.com

ホームページ：<https://www.focolare.org/japan/>

¹ “Experience Ubuntu”, 2006年5月24日 Tim Modise のインタビューより

² キアラ・ルーピック、1994年いのちの言葉 11月、ファビオ・チャルディ監修

記録的な雨の日続きの梅雨が明けて燐燐たる陽光が溢れかえり、これまた記録的な猛暑の襲来です。深深と長雨にぬれる樹木の濃い緑も風情がありましたが、太陽の熱を受けて地にひんやりと緑陰を作る密な茂りもまた力に満ちた美しさがあり、好ましくどこか安定感を覚えます。

夏たけなわ、学校は夏休みになったのでしょうか、子供たちの姿を急にたくさん見かけるようになりました。

この辺りは築半世紀を超える経年の居住地なので、樹木の多さ大きさ繁茂たるもの都会の団地とは思えない豊かさを誇り、この季節は文字通りの蝉の王国と相成ります。決して時を違うことない先駆けの一聲を聞くと、もうその後は日いちにちと盛んとなって、夜明け方から夜半過ぎまで蝉の大合唱に包み尽くされてしまいます。ベランダの網戸に一時に二つ三つとやってきて力強い声を張り上げるのも珍しいことではありません。

子ども達は（時には大人も）虫取り網を持って樹の上を見上げたり、かごの中の収穫物を確かめたりして歓声をあげていること随所にです。

そんな真夏のある日のことでした。外から澄んだ子どもの声が聞こえてきて、私は思わず手仕事を止めて耳を傾けました。

「ねえ オレ ざんこくなことしてる？」

「え？ うん オレのほう ざんこく」

それだけでした。それ以上の会話はなく、窓から外を見やると白いシャツの二人が緑の中をよぎりました。小学校低学年とみえる男の子でした。

その時、私の胸に何かが深く届いて衝撃となりました。息を詰めるかの感じになりながらじっと思いを凝らしました。思いは深く深くとどまらず深まりゆきました。

これは残酷なことなのだ。自分は残酷なことをしている。ふと気づいて愕然として、堪らなくなって尋ねる。誰かに尋ねずにはいられない。

白いシャツの男の子たちが実際に何をしていたのかわからないのですが、二人の気持ちはわかりすぎるほどわかりました。二人の会話は一つの重大なことへの共有、共感が繊細に精確に響き合っていて、傍らで聞いていてあまりにも直に腑に落ちて、私は鋭く痛みさえも覚えたのです。そしてちょうど二人と同じ年頃の昔の私自身が忽然とよみがえり現れたのでした。

戦争のさなか、両親の元を離れて祖父母のところへ縁故疎開をしていた時、田舎の生活にもなじめず、寂しさ悲しさを一人でどうすることもできずにいました。毎日、年上の子供たちの後にくつついで山や川、田んぼや原っぱを走りまわっていた時に、私は考えてみればそれはそれは残酷なことを遊びながらたくさん覚えました。例えばバッタを捕まえて、猫じゃらしと呼んでいた草の茎に5匹6匹と首の部分を突き通して数珠つなぎにして、それを2本3本と作り持ち帰って鶏小屋に投げ入れ、大勢の鶏が喜々と突っつきまわすのを複雑極まりない思いでぼんやりと眺めていたこと。とても孤独でした。

「ねえ 私ざんこくなことしてる？」

誰かに訴えたかった。わかってくれて受けとめてくれる誰かがあの日ほしかった。

更に追って思ってみれば、バッタを食べたこの鶏のどれかを私は何時かの日にきっと食べたに違いありません。普通に日常の出来事だったのかもしれません、父の従兄のヒデ兄さんが来て鶏を「つぶす」のを憶えているのです。

前にこの欄に遵守不可能の不殺生戒のことを書き記したことがあります。作家玄侑宗久氏のことばに触れ、感じたこと思ったことなどを稚拙にも記し述べました。玄侑氏の言葉は、実現不可能の戒こそ永遠の誓いであるのだという主旨でした。合理に墮すことなく不可能を目指し続ける人間はたぶん美しくなるというそういう内容でした。

「ねえ オレざんこくなことしてる？」

白いシャツの男の子の胸に萌した深い痛悔。自分の無力。誰かに訴えたい寄る辺のない哀しみ。生きとし生けるものの矛盾をはらんで私たちの永遠の問題と言える問い合わせを受け取り、私は子どもたちを無性にひたすらに愛おしく思い、思わずして主の御顔を求めました。

御子イエズスキリストの流し給える御血の功徳によりてわが罪を
赦し給え 聖寵の助けをもって今より心を改め・・

告解室の安らぎを想い感じつつ窓の外に目を向けると、今日もまた暑さのさなか、虫取りの子どもたちの声は蝉の声と合わさって、エネルギーに満ちた美しい夏を描き出しています。

(上野毛教会信徒)

跣足カルメル修道会HP（International）

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2019年9月13日

バチカンの“奉獻・使徒的生活省”のメンバーに推薦された
跣足カルメル修道会総長 ザベリオ カニストゥラ神父様へのインタビュー



親愛なるザベリオ総長様

☆私たちちは、あなたがバチカンの“奉獻・使徒的生活省”のメンバーとして推薦された最近のニュースに、心よりお慶びを申し上げます。これについて、どのようなお気持ちですか。驚かれたでしょうか。

総長：とても大きな驚きでした。私は、このことを省の長官へのメッセージを通して知りました。

☆この省のメンバーとしてのお役目についての具体的なお考えを伺いたいです。

総長：実のところ、私もこの省のメンバーに託された特別な役割について詳しく分かってはいません。それは、ある特定の事柄に対処するエキスパートのような仕事を意味するものではありません。どのバチカンの省にも、選出されたメンバーが出席する通常議会と全体会議があることは理解しています。

☆いつでも教皇様から教会の奉仕として特別な責務を果たすために召されるのは名誉なことです。跣足カルメル修道会総長として、“奉獻・使徒的生活省”にどのように寄与されるとお考えでしょうか。

総長：教皇様に信頼を受けたことを、個人としてだけでなく、特にテレジア的跣足カルメル修道会として感謝しています。私が寄与できることに関して、今まで修道会の会議で検討してきたいくつかのテーマについてはかなり貢献できると思います。ある分野においては、他の方々より要望応えられ、経験も有しています。それらは、教会生活における豊かな個人的経験と熱心な関わりを明確に立証するものでなければなりません。

☆ 総長の女子跣足カルメル修道会へのご奉仕の経験は、今度の新しいお役職においてとても貴重であると思います。これについてどう考えでしょうか。そして、総長のお考えとして、今日の観想修道会奉獻者のチャレンジと問題は何でしょうか。

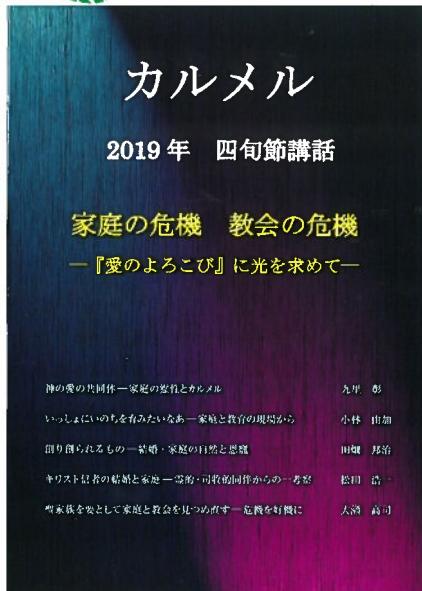
総長：この観想修道会奉獻者のテーマは実際、私に特別な寄与ができるところだと感じています。現在、教皇庁使徒憲章「ヴルトゥム・ディ・クエレレ」
“Vultum Dei quaerere”とその実施指導要綱「コール オーランス」
“Cor orans”が観想修道会奉獻者、特に女子観想修道会の刷新のために提出されており、それについて多くの問い合わせがなされています。私は、これに関して最も大切なチャレンジは、より偉大なメンタリティーとメンタリティーのチャレンジだと確信しています。其々の女子観想修道会共同体は、法的自立制を尊重しつつ、より広い体制で、拡大される姉妹愛に積極的に関わるメンバーになるよう求められています。さらに皆の力を統合し、そのように拡充された組織において、今日の問題解決に取り組むことで解決を見出せるでしょう。

総長 ザベリオ神父様、誠にありがとうございました。私たちは総長の新たな使命のためにお祈り致します。どうか、神の豊かな祝福がありますように。

(小宮山延子 訳)



カルメル誌 新刊案内



2019年 特集号 「家庭の危機 教会の危機」 —「愛のよろこび」に光を求めて—

神の愛の共同体—家庭の靈性とカルメル 九里 彰
 いっしょにいのちを育みたいなあ 小林由加
 一家庭と教育の現場から 田畠邦治
 創り創られるもの—結婚・家庭の自然と恩寵 田畠邦治
 キリスト信者の結婚と家庭 伊従信子
 —靈的・司牧的同伴からの一考察 松田浩一
 聖家族を要として家庭と教会を見つめ直す 九里 彰
 —危機を好機に 大瀬高司

ご案内 1冊 520円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

- 送付ご希望の方は、700円【520円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい
- 年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特集号 計 3,500円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 足立カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当:今泉ヒサエ宛に上野毛修道院へ手紙かファックスで。

〒158-0093 世田谷区上野毛2-14-25 Fax:03-3704-1764

又は E-mail: hisa_ima520@ezweb.ne.jp



**第2版
好評発売中!**

福者マリー=ユジエーヌ神父に導かれて 十字架の聖ヨハネの ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540円**(税込)

[聖母文庫] **287**



マリー=ユジエーヌ神父が十字架の聖ヨハネを生き、体験し、確認した教えなのです。ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの教えは現代の人々にも十分適応されます。また、神の命を伝え、実践的手段を示して聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)



神と親しく生きる いのりの道

福者マリー=ユジエーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャール 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 [聖母文庫] **246**

定価**540円**(税込) 209頁



わたしは神をみたい いのりの道をゆく

マリー=ユジエーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

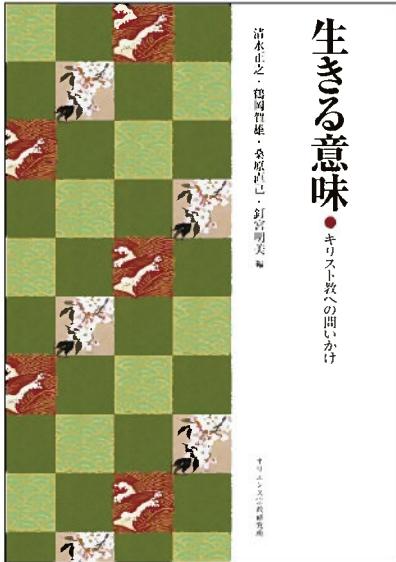
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 [聖母文庫] **268**

定価**648円**(税込) 281頁



— ご注文・お問い合わせ先 —

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美編
生きる意味・キリスト教への問いかけ

書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問い合わせ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

——目次——

- 序 「生きる意味への問い合わせ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稻場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴテラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの靈性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による靈性化／中野東禪
- 13 エディット・シュタイン『十字架の學問』への道とその靈性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



愛と英知の道

—すべてのための靈性神学—

ウイリアム・ジョンストン著



愛と英知の道

—すべてのための靈性神学—

ウイリアム・ジョンストン著

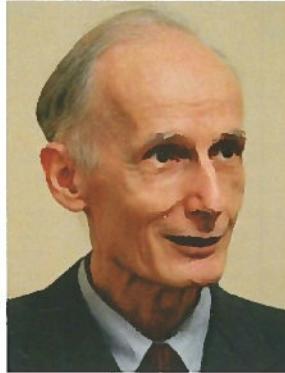
岡島 禮子 監訳
九里 彰 共訳
三好 洋子 渡辺 愛子 共訳

西洋と東洋の神祕主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に適した靈的生활の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによつて牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言つてゐるとおりである」(『教会憲章』39)。本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたこと、「21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進ますが、真理の探究において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。

第一部 キリスト教の伝統	第1章 背景(1)	第2章 背景(2)
第3章 理性と神祕主義	第4章 東方のキリスト教	第5章 義理を通じて生きる英知
第二部 対話	第6章 神祕主義と愛	第7章 科学と神祕學
第8章 修徳主義とアジア	第9章 神祕主義とエカルギー	第10章 英知と虚空
第三部 現代の神祕的な旅	第11章 信仰の道	第12章 暗夜(愛のうちにある)
第13章 花嫁(花婿)	第14章 晴夜(花嫁)	第15章 花嫁(花婿)
第16章 改善活動	第17章 愛のうちにある	第18章 社会活動の神祕主義
第19章 終章	第20章 信頼の旅	



ウイリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)
北アイルランドのベルファストに生まれる。
イエス会に入会し、26歳で卒業。
32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教を上智大学などで講じるがたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルベート・マートン、ダイ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した靈性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や默想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構架して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

ISBN

定価(本体+税)

第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い合わせ」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理... 全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の默想 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐっての根本的な問い合わせを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拡げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問い合わせと坐禅による実践 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問い合わせから発した人生的意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です！」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公私立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知泉書館 〒113-0033 東京都文京区本郷1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19：10）



東京 上野毛 靈性センター

黙想企画 * * 上野毛 聖テレジア修道院（黙想）* *

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【クリスマス】 12月24日(火)～25日(水)朝食《講話なし、夕食なし》

聖書深読黙想会 (土曜日18時～日曜日16時) 大瀬高司 神父

11月30日(土)～12月1日(日)

一泊黙想会 (土曜日16時～日曜日16時) 志村武神父

2020年

11月9日～10日

1月18日～19日

3月14日～15日

日帰り黙想会 (13時30分～16時) 福田正範 神父

5月以降は全て中止となりました

奉獻生活者のための黙想会 (初日17時～最終日朝食)

※指導司祭は、当初ご案内していた福田正範神父から今泉健・志村武両神父に
変更となりました

10月10日(木)～19日(土)

12月27日(金)～1月5日(日)

青年黙想会(男女) 35歳位まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士

2020年

2月15日(土)～16日(日)

召命黙想会（男女）40歳まで（初日16時～最終日16時）カルメル会士
11月22日（金）～11月24日（日）

特別黙想会（初日20時～翌日16時）Sr. 伊従信子（ノートルダム・ド・ヴィ）
11月15日（金）～11月17日（日）



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

聖テレジア修道院（黙想）

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ：<http://www.carmel-monastery.jp>

一泊黙想会

5月より新しく一泊黙想会を開始致します。皆様の参加をお待ちしています。

場所: カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

指導: 志村 武神父

会費: ¥6500

日時: 2019年 5月25日(土)～26日(日) 16時開始、翌日16時まで

7月 6日(土)～7日(日) //

11月 9日(土)～10日(日) //

2020年 1月 18日(土)～19日(日) //

3月14日(土)～15日(日) //

*お問合せ・お申込み

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789

Eメール:mokusou@carmel-monastery.jp



主よ、来てください

主よ、来てください

主よ、来てください

主よ、来てください

主よ、来てください



特別黙想会 《わたしは神をみたい》

2019年11月15日(金) 20時～17日(日) 15時

- 指導：伊徳 信子（ノートルダム・ド・ヴィ会員）
- 持参品：『いのりの道をゆく』伊徳 編・著、聖母文庫、聖母の騎士
（『ひかりの道をゆく』をお持ちの方はそちらも）
黙想の家にて購入可
- 参加費：¥12,000
- 場所：カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）
〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
Tel 03-5706-7355
- お申込み：FAX: 03-3704-1764
Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp
または、ハガキにてお申込み下さい。



宇治カルメル会 黙想会案内 (2019年9月～12月)

【一般のための黙想】・1泊2日（午後5時～午後4時）

11月23日(土)～24日(日) 現代を生きるイエスのしるし 中川博道神父

【聖書深読黙想会】(午前10時～午後4時)

9月7日(土) 九里彰神父 中止 11月16日(土) 九里彰神父 中止

【水曜の黙想】(午前10時～午後4時)

10月30日(水) かそけきもの Br.原造 中止

11月27日(水) あなたは世の塩である Sr.ロサ

12月18日(水) 主が生まれる私たちのうちに 中川博道神父

【土曜の黙想】(午後1時～午後6時)

9月21日(土) み国が来ますように Sr.ロサ

10月26日(土) 「思い悩むな」 九里彰神父 中止

【一般のためのカルメル靈性】(午後5時～午後4時)

9月28日(土)～29日(日) 聖テレーズの黙想会 中川博道神父

10月12日(土)～13日(日) イエスの聖テレジア 九里彰神父 中止

12月14日(土)～15日(日) 十字架の聖ヨハネ 中川博道神父

【奉獻生活者の黙想】(午後5時～午前9時)

11月6日(水)～15日(金) 中川博道神父

12月27日(金)～1月5日(日) 中川博道神父

【待降節の黙想】(午後5時～午後4時)

12月7日(土)～8日(日) 「メシアのしるし」 九里彰神父 中止

九里彰神父の黙想会は5月より金沢へ移動にあたり、全て中止とさせて頂きます
また今後、変更があり次第、掲載させて頂きます

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後4時以降可 チェックアウト午前11:30{講話なし 各食事つき}

【クリスマス】

12月24日(火)～12月25日(水)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願い致します。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御歳山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

<http://www.carmelui.sakura.ne.jp/>

カルメル修道会 土曜静修 in 名古屋

—カルメル会士とともに過ごす聖母の土曜日—

日 時 : 2019年 9月7日 (土) 13時から 17時

場 所 : カルメル修道会 日比野(本部)修道院 (カトリック日比野教会)

プログラム : 13時 ~ 講話・黙想など
16時 ~ ミサ(ミサ中に教会の祈り)、サルヴェ・レジナ(ミサ後)
17時 解散

- ・受付開始は12時半の予定です。
- ・途中、ゆるしの秘跡の時間を設ける予定です。
- ・プログラムに必要な「祈りのリーフレット類」は、こちらで準備いたします。

その他 : 参加のための事前連絡は不要です。当日、直接会場にお越し下さい。
(尚、当日は、1,000円程度のご寄付を宜しくお願いいたします。)

問い合わせ : 郵便、FAX、E-mail の何れかで「カルメル修道会 一日静修係」まで。

郵便 456-0062 名古屋市熱田区大宝 4-5-17

FAX 052-681-6445

E-mail hibino@carmel.or.jp

今後のスケジュール

次回以降、10月5日(土)、11月2日(土)、12月7日(土)。

原則13時から17時まで。ホームページでもご案内しています。

<http://www.carmel-monastery.jp>

<主催> 男子跣足カルメル修道会 日比野(本部)修道院 (大瀬神父・古川神父)

金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル靈性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読默想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に默想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所で特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由にご自分の考え方や質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなものもあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合 19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

諸所の企画案内



真命山 靈性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
慈しみ深き会
詩編の会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。

記載には注意を期しておりますが、

詳細は各問い合わせにご照会下さい。

よろしくお願ひ致します。

**「祈り」：神秘体験
キリストによって神との出会い**

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

**2月14日：コデノッティ・クラウディオ神父(ザベリオ会管区長)
個人またはグループでの默想会
研修会も歓迎いたします(要予約)**

- | | |
|--------|--|
| 1月10日 | 「わたしはある」（ヨハネ8:24.28） |
| 2月14日 | 「わたしはこの世の光である」（ヨハネ8:12.12:46） |
| 3月14日 | 「わたしは門である」（ヨハネ10:7-9） |
| 4月11日 | 「わたしは良い羊飼いである」（ヨハネ10:14） |
| 5月 9日 | 「わたしは復活であり、命である」（ヨハネ11:25） |
| 6月13日 | 「わたしが命のパンである」（ヨハネ6:35.51） |
| 7月11日 | 「わたしは道であり、真理であり、命である」（ヨハネ14:6） |
| 8月 | 休み |
| 9月12日 | 「わたしはまことのぶどうの木」である。（ヨハネ15:1-12） |
| 10月10日 | 「わたしは…いつもあなたがたと共にいる」（マタイ28:20） |
| 11月14日 | 「わたしはアルファであり、オメガである」（黙示録1:8） |
| 12月12日 | 「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、
わたしもその中にいるのである」（マタイ18:20） |



申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

祈りの集い

【2019年9月21日(土)】



小さいながら神に近づく

幼きイエスの聖テレーズの「小鳥の祈り」を手がかりに彼女が生きた観想的いのりをさぐります。

(参考テキスト『いのりの道をゆく』伊従 信子編・著)

講話・祈り・分かち合い 午後2時~5時30分

担当 中山 真里

【2019年9月28日(土)】



わたしの天国は、
世の終わりまで地上の人々を
たすけることです！

そうです！ また戻ってきます、
降りてきます！

テレーズとともに 午後2時~5時30分

担当 伊従 信子

* * * * *

場 所：ノートルダム・ド・ヴィ（東京・上石神井）



参加費：200円

* * * * *

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想 ~東洋の瞑想とキリスト者の祈り~

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jesuits.or.jp/>

申し込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日 時	指導	開催場所	申込み
サダナⅡ	9/19(木)17:30 23(月)16:00	Fr植栗	上石神井無原罪聖母修道院	来間(くるま) 裕美子※ TEL 090-5325-2518 045-577-0740 sadhana12378@yahoo.co.jp
入門A	9/29(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F(四ツ谷)	同上
フォローアップ	10/6(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F(四ツ谷)	同上
浜松サダナ I &アドバンス	10/11(金)17:30- 14(月)14:00	Fr植栗	浜松三ヶ日研修センター(浜松市北区)	同上
入門B	10/27(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F(四ツ谷)	同上
広島サダナ I &アドバンス	11/15(金)9:00- 17(日)18:00	Fr植栗 Frアレックス	西日本靈性センター (広島市安佐南区)	西日本靈性センター 受付デスク TEL 082-239-0034 ※前泊、継続宿泊、通いも 可能です。
入門C	11/24(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F(四ツ谷)	来間(くるま) 裕美子※

※申し込みると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518（来間）までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

◆サダナ I (入門A.B.C) …体の営みと想像とを生かして祈りを深め
「神との出会い」と「心の解放」をめざします。

◆サダナ II … I をいつそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合されます。

◆フォローアップ…サダナ I を終えた方。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院 (2019年)

◎ 所在地：〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel : 077-579-7580
Fax : 077-579-3804
Eメール : karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通：JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 5月 5日(日)～5月 13日(月)
- ② 8月 14日(水)～8月 22日(木)
- ③ 10月 6日(日)～10月 14日(月)
- ⑤ 12月 27日(金)～2020年1月 4日(土)

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ④ 6月 21日(金)～6月 23日(日)
- ⑤ 7月 12日(金)～7月 14日(日)
- ⑥ 9月 20日(金)～9月 22日(日)
- ⑦ 11月 15日(金)～11月 17日(日)

C. 講話 黙想（奉獻生活者のため）

2019年 5月 30日(木) 夕食～6月 7日(金) 昼食 小暮 康久 師(SJ)

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 靈的同伴者：司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み：1) 氏名(フリガナ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号)を書いて郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順11名です。

◎ 女子青年 黙想会

- ① 6月 15日(土) 15時～6月 16日(日) 15時30分
- ② 10月 26日(土) 15時～10月 27日(日) 15時30分

申込み：唐崎修道院 Sr.桂川 美代 (Tel:077-579-2884 Fax:077-579-3804)

◎ その他：司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。（但し、上記の日程と8月1日～8月9日、9月1日～9月7日を除きます。）

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
—観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

12月のみマリア聖堂（ミサあり）

14:00～16:00



指導：九里 彰くのり 神父（カルメル修道会）

【2019年予定】 聖書のみことばを通して、念祷してゆきましょう。

1月24日 まことの家族とは 終了

「わたしの母、わたしの兄弟とは…」（ルカ8・21）

3月21日 祈りと祈りの場 終了

「わたしの家は、祈りの家でなければならない。」（ルカ19・46）

5月16日 人間の傲慢 終了

「だれが一番偉いかという議論が起きた。」（ルカ9・46）

7月25日 神の愛と隣人愛 終了

「わたしの隣人とはだれですか。」（ルカ10・29）

9月26日 信仰と救い

「あなたの信仰があなたを救った。」

（ルカ7・50；8・48；18・42）

11月28日 神の愛と回心

「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」

（ルカ19・10）

12月19日 謙遜と従順 （講話の後、ミサ）

「お言葉どおり、この身に成りますように」（ルカ1・38）

*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

※各默想会内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

ミサと晩の祈りをうたう集いへのおさそい

《守護の天使の記念日》

日時：2019年10月2日 水曜日

13時半 晩の祈りの練習

14時 歌唱ミサ

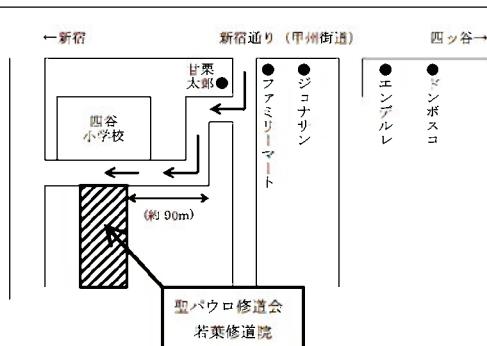
ひきつづき 晩の祈り（歌）（終了予定 16時頃）

司式：中川博道神父（カルメル修道会）

場所：聖パウロ修道会 若葉修道院

*上履きをご持参ください

JR中央線/営団地下鉄 丸ノ内線・南北線 「四ツ谷」駅下車



<道順>
四ツ谷駅より
サンパウロ→ドンボスコ→
ファミリーマートを左折
甘栗太郎を右折
道なり後左折→道なり後右折
約90m直進
四谷小学校の正面
<住所>
東京都新宿区若葉1-5

主催：「詩編の会」

「神はその羽であなたを覆い、翼のもとにあなたは逃れる。」

(詩編：91・4ab)

問合せ・連絡先：TEL/FAX 045-402-5131 (藤井)

e-mail: shihennokai@gmail.com

『靈性センターニュース』

郵送お申込みのご案内

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。

途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。

例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184

加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。

また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。

その場合は、「献金」とご記入お願い致します。

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御藏山39-12

カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」

Tel:0774-32-7456

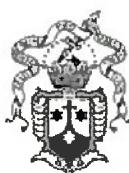
Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき

世界で様々な気象の記録が書き換えられた夏を過ぎて、みなさまはいかがお過ごしですか。

7月半ばから8月3日までドイツ・デュッセルドルフに留まる機会に恵まれました。45度という気温が数日づく中、30年ほど昔シチリア島で小教区の留守番をしながら体験した45度の日々を思い出しました。

身体についてゆかず、重篤な気管支炎を発症しました。ドイツ北部、北海道の気候を思わせる地域で、シチリア島のような気候が始まっています。「ともに暮らす家を大切に」思う「靈性」こそが、今、問われていることを実感した日々でした。

Fr.中川博道 o.c.d.

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています



◆◆◆製本／発送のご協力お願い◆◆◆

「靈性センターニュース」の製本/発送を、2017年7月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

次回の製本/発送日 **9月26日(木)** 午前10時頃から

宇治修道院信徒会館

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しください。

靈性センター事務局 ☎0774-32-7456